

## F—15 労務系有職主婦の家庭管理の問題点

和洋女大文家政 ○酒井ノブ子  
大阪府庁労働部 篠原 冬

1. 酒井の共稼ぎ家庭の家庭管理の問題点に続いて、ここでは労務系の有職主婦のみについて、その問題点を見出だそうとした。
2. 対象は前回と同じく、小学生以上の子どものある家庭で主婦が労務系の職にあるもの 100 名(共稼ぎ 78 名、夫のないもの 22 名)を選んだ。調査方法、時期は前と同じである。

3. その結果、家庭管理の行為については、共稼ぎと夫のない主婦との間に有意差はなく、ともに制御能力が最も高く、教示能力が最低であった。また客体については、全体として衣服、金銭の管理に優れ、時間の管理が最低であった。しかし、ここでは共稼ぎと夫のない主婦との間に有意差があり、金銭、住居、設備施設の管理は共稼ぎの方が優れていた。また共稼ぎでは衣服、金銭の管理が優れているのに対して、夫のない主婦は食物、愛情の管理が優れているという問題点の相違が見られた。

また酒井の共稼ぎ家庭との違いを見ると、各行為、客体ともに有意差は認められなかった。また酒井が先に発表した労務系給与生活者家庭との比較においては、行為については、教示能力以外はすべて有職者の方が優れていた。また客体については、金銭、衣服、設備施設の管理の他はすべて有職者の方が優れていることが分った。また有職者の方は衣服の管理が最も優れているのに対して、労務系給与生活者の方は金銭の管理が最も優れている結果が出た。